

意見聴取会 意見陳述申込書

天塩川流域委員会 宛 御中。

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

1. 意見陳述申込者

平成17年3月19日

ふりがな
㊦ 氏 名

年齢 34 歳

性別 男 ・ 女

㊦ 住 所 江別市

2. ご 意 見

別紙添付を 見ても可。

道北一帯は北海道でも失われつつある手つかずの自然が未だ残されており、中でも天塩川流域は川がもたらす多様な生態系や景観に富み、それらは流域住民のみならず、日本の大切な財産であると考えています。そのことは、『天塩川かわづくりの提言』の中でもはっきりと明記されており、このすばらしい提言通りの川づくりをとり進めて頂けていただくことに異議はありません。

しかし、サンルダム建設事業にあたっては、この提言に逆行した内容と貴委員会の取り進めに憤りを感じております。

ご存じの通り、サンル川には天然のサクラマスが多数産卵遡上にあがる川として知られています。釣り人として道内河川を歩き、魚を知り、このような川が北海道ですらわずかであると危機を感じています。その上、サクラマスは河川依存度の高い魚として、漁業面としても増殖事業が進まず天然資源に頼っている状況です。遊魚やさけます事業による移植放流が進む昨今、このように天然資源で持続可能な河川があることこそ天塩川の魅力といっても過言ではありません。

また、サケ科魚類の生態は海と森を繋ぎ自然の循環に与える影響が大きいことが学術的に示されています。サクラマスはサケ科魚類の中でも、日本固有種としての価値と、その間近に感じることのできる生態や水辺環境は子ども教育にも適し、既に地元NPO団体も取り組んでいるようですが、後世へ伝えるられるよう最大限に保全利用する努力こそ必要です。

貴会を公聴しましたが、洪水調節にはサンルダムありきなのでしょうか？
会議中に出た質問には即答せず、次開催時にダム事業が最善であることを示す資料提示といった対応に終始されています。その内容も十分に検討され資料が仕上げられたとは思えません。
また、議事進行においては、資料説明に時間を割き、もはや委員会内の議論さえない、一言も発さない委員がいらっしゃることには、貴委員会のあり方にすら疑問を覚えます。

また、かねてより貴委員会HPで求められている意見募集についても、どのような意見が届いているのか不透明で、実際提出しましたが、委員の手元に届いているかすら解りません。3月に入り、新聞投書でもサンルダム事業についての意見がみられています。開示できる範囲内で公表すべきではないでしょうか。また、これらの意見がどのように計画に反映されるのか、その活用方法について伺いいたします。
さらに、今回の意見陳述についても平日開催、募集期間も短く、仮に、これらの意見募集が単なるパフォーマンスであるなら許されない愚行です。

サンルダム事業は天塩川の河川整備・管理について根幹をなすものです。今一度、自治体や住民団体と連携した天塩川づくりを目指し、委員会内でも十分に議論を呼び起こした上で取り進めていただきたいと強く希望いたします。

平成17年3月19日